



153号

2010/5 /1

日中文化交流市民サークル‘わんりい’

東京都町田市能ヶ谷町 1521-58 田井方

〒195-0053 TEL&FAX:042-734-5100

<http://wanli.web.infoseek.co.jp/>

Eメール:[wanli@jcom.home.ne.jp](mailto:wanli@jcom.home.ne.jp)



カンボジア王国バンテアイミエンチェイ洲ツールボンロー村の小学校にて(2008年9月8日)

撮影:辻千恵美

‘わんりい’153号の主な目次

北京雑感(44)「 <sup>かこ</sup> 囲いⅡ」	2
私の調べた四字熟語(42)「 <sup>とうろう</sup> 螳螂之斧」	3
媛媛讲故事(23)「八仙の伝説Ⅲ」	4
土の香りのモダンアート・農民画⑨	6
松本杏花山の俳句集・「余情残心」より	7
アジアを読む(66)「経済ってそういうこと…」	7
【活動報告】クッキーと生チョコの会	8
カンボジアの村の暮らしⅠ	9
アフリカとの出会い(42)「叔父さんが…②」	10
日本語教授の現場から	11
スリランカ紹介(38)「スリランカの世界遺産Ⅱ」	12
5月の歌・歌詞「夜来香」	13
私の四川省一人旅(35) 垂丁21	14
‘わんりい’ 掲示板Ⅰ	17
‘わんりい’ 掲示板Ⅱ	18

↑【写真説明】校庭で一緒に紙飛行機を飛ばして遊んでいた女の子が校庭の隅に走っていき、花を手折ってプレゼントしてくれました。オークン(ありがとう)

♪♪「中国語で歌おう!会」5月の歌♪♪  
歌い継がれ、今なお愛される永遠の名歌

〈夜来香〉(歌詞13p)

作詞・作曲 黎錦元

於:まちだ中央公民館・第一音楽室  
JR 横浜線町田駅八王子寄り改札口徒歩2分  
小田急線南口徒歩5分町田  
東急裏109ファッションビル7F

5月21日(金) 19:00~20:30

指導: <sup>zhào fèng yīng</sup>趙鳳英 (中国人歌手)

録音機をお持ちの方はご持参下さい。

●参加費:1500円(体験無料)

■「中国語で歌おう!会」6月の講座日:6月11日(金)

■初めてご参加の方は、会場、日時など‘わんりい’事務局(☎042-734-5100)へお問合せ下さい。

もう一つ、中国人は囲いが好きという印象を強めた経験は、列車で北京を離れた時、どの辺りか定かではないのですが、車窓から見える畑に比較的新しい柵がめぐらしてあるのを目撃したことです。牧草地などではなく、その時は作物が植わってはいませんでした。畝があり、畦道が通っていて、明らかに畑です。見渡した所に家はおろか、農具小屋のようなものも見えないのに、柵がかなり広い範囲にめぐらしてありました。

中国人の友人と一緒にだったので、「あれは何？」と訊きましたが、彼らにもわかりませんでした。冗談に、「大躍進時代の共同農場の仕切りではないの？」と言ってみましたが、言下に否定されてしまいました。確かに、そんなに古いものではありませんから、余計不思議でした。考えられるのは、個人か企業かは分かりませんが、新たに所有権（中国での土地は使用権だそうです）を得て、その事実の周知を図っているのではないかと言うことです。

そう言えば、北京近郊でも、これほど大規模ではありませんが畑の周りに柵を造っているのを、車で通りかかってみたことがあります。この時は、囲いの中に農家が軒建っていて、自分たちの畑の境界を主張しているのが明らかに見て取れました。柵と言っても、日本でよく見かける金網とか鉄棒のフェンスではなく、地面から5,60センチはレンガで造り、その上に鉄棒を植え付けたような本格的な囲いです。畑にこのような囲いは、日本人の感覚に馴染まず、奇妙な印象だけが残りました。

前にお話しましたように、大学構内の建設現場に設けられた、瓦をのせたモルタル造りの塀を奇妙に感じましたが、あれは、安全のために部外者の立ち入りを禁止すると言うより、「我々の城である、この作業現場を部外者の侵入から護る」と言う思いで建てた囲いだと考えれば、畑地の囲いと同じような意味を感じて、納得がいきます。

日本では、畑に囲いをするのは、鹿や猪から農作物を護るための主で、たとえ隣人と折り合いが悪くても、隣の畑との境界に柵を造ることは余り無いように思いますが如何でしょうか。中国では、仲の良い隣人同士でも、必要とあれば畑地にでも柵を設けるとは、私の友人の説明です。これは、国民性の違いと言うよりは、歴史的な必要性がこのような習慣を生んだのではないかと勝手に思っています。中国は平らな土地が広いので、何処が境界なのかははっきり示す必要があり、その境界を巡る争いの積み重ねが歴史なのでしょう。

北京の近郊を車で走っていると、突然、前方にアー

チが現れて、そこに〇〇鎮、△△郷と書いてあったり、時々、「××鎮歓迎您」と書いてあったりします。勿論日本でも、「ようこそ〇〇温泉へ！」とか、或いは道路際にポールを立てて、「これより△△市」などと行政区画の境界を示したりしていますが、それらはあくまでも通行する人々への情報として提供していると感じることが出来ます。

ところが、中国で見かけるこの種の看板は、通行人への情報と言うより、一歩も二歩も進んで、「此処からは〇〇鎮だぞ！」「この先は我々△△郷の土地だ！」と外部の人たちに境界をはっきり示すためにあるように思えます。それが証拠には、ごく偶にですが、アーチの両脇にフェンスが延びていたり、無人の番小屋らしきものがあつたりします。勿論、今現在使用している様子はありませんが、昔の存在意義を充分に察することができる雰囲気を持っています。昔は、地域の境界線を護る重要な施設だったと思えます。

中国では、この境界線のために多くの英雄が活躍し、策士が暗躍し、美談も悲恋も語り継がれて、長い長い歴史が形成されて来たのでしょう。このような囲いの文化があつてこそ、孟嘗君の「鶏鳴狗盗」のお話が納得でき、面白く伝わっているのです。中国の人々にとって、境界を先ず囲ってしまうのが安心なのだろうと推察します。この囲いの意識が、近代的な大都市北京でも「小区」と言う行政単位として生き残っています。「小区」の入り口には必ず人がいて、用も無いのに入り込むのは難しい雰囲気ですが、中の住人を訪ねるのだと分かると、とても親切に対応してくれます。

中国の人々は、地面に囲いを築くけれど心はオープンで、一度知り合うと、直ちに友人として暖かく受け入れてくれる方々が多いと感じます。囲いの無い日本では、当然のことながら全ての人が心を開いてくれるわけではありません。地面に囲いのない分、心はより慎重になることもあるのかも知れません。

中国人も日本人も、いろいろな人がいます。直ぐに打ち解ける人、なかなか打ち解けられない人、直ぐに受け入れてくれる人、受け入れに慎重な人、本当に種々様々です。背負った歴史や、生きる地域の地勢によっていろいろな特性を持つけれど、その特性でも覆いきれない本性を人間は持ち合わせているのです。人間の性質は千差万別ですが、人種・国籍にかかわらず、その本質はあまり変わらないのだとつくづく感じます。

とても勝ち目の無い相手に立ち向かう厳しい状況を「蠅螂の斧」を振るといいますね。

蠅螂はカマキリのことです。カマキリは自分に危険が迫ると到底勝ち目のない相手でもかまわずあの大きな鎌を振り上げ攻撃してきます。その身の程知らずな様子から生まれた成語ではかない抵抗とか、向こう見ず、身の程知らず、などというあまりよくない意味で使われることが多いようです。

今回はその謂れを調べてみました。

▲三省堂現代国語辞典：

「蠅螂の斧:自分の力を考えずに、強い相手に立ち向かうこと」

▲小学館中日辞典：

「螳臂当车 (táng bì dāngchē) カマキリが前肢を振るって車に立ち向かう。自分の力をわきまえずに手に余る仕事をしようとして失敗に終わるたとえ。蠅螂の斧。身の程知らず」

この成語の出自は「莊子・人間世篇」<sup>1)</sup>の

「汝不知夫螳螂乎？怒其臂以当车辙，不知其不胜任也」(汝、蠅螂を知らずや？そのひじを怒らせて以って車に立ち向かう、その任に堪えざるを知らず)の部分です。

中国の春秋時代、魯国の名士の顔闔 (がんこう) が衛国にやって来ました。衛の靈公は顔闔の学識が大変深くて広いことを聞いていましたので、彼を招いて自分の息子の蒯瞶 (かいき) の教育を依頼しようと思っていました。ところが蒯瞶は残虐非道、傲慢奢侈で人殺しも平気という不道徳極まりない性格でしたので、衛国の人々は皆彼を大変恐れていました。

顔闔は自分がこのような者を教育することが果たして可能なか思い悩んだ末、衛国で賢人として知られた蘧伯玉 (きよはくぎょく) のところへどうしたものか意見を訊きに行きました。

すると、蘧伯玉は顔闔に言いました。

「あなたが蒯瞶の教育に関わろうと考えているので

したら、大変困難なことを覚悟してください。そしてあなたが本当に彼の教育係を担当するようになったら、くれぐれも慎重にして、重大な過失を招かないよう気をつけてください」

蘧伯玉は更に続けて、次のような例を挙げました。

「あなたはカマキリをご存知と思いますが、ある時私が馬車に乗って外出した折、路上にカマキリが鎌を思いつき高く掲げて馬車の車輪が進むのを阻止しようとしているのを見ました。

カマキリは自分の力量が到底馬車にはかなわないことが分からず、車輪に轢かれて死んでしまいました。つまりカマキリは自分の力の程度をわきまえていなかったもので、車輪に轢かれてしまったのだといえるでしょう。どうぞあなたも十分にご自分の力量を考えてみてください。うっかり蒯瞶に近づいてその怒りに触れ、カマキリと同じ目に遭うことがないようにと祈っています」

顔闔は蘧伯玉の忠告を聞いて、確かにその通りだと心から納得し、蒯瞶の教育を担当して欲しいという靈公の依頼は断り、さっさと衛国を離れました。その後、蒯瞶は案の定様々なトラブルを起し続け、結局人々から強い反感を買い殺されてしまったのです。

#### ■注記

- 1) 莊子・人間世篇：中国古代の思想家であり、諸子百家<sup>2)</sup>のなかの道家(どうか)<sup>3)</sup>の代表者とされる莊子(生没年不詳)の著作とされる書物「莊子(そうじ)」のこと。莊子は内篇七篇、外篇十五篇、雜篇十一篇により構成され、人間世篇は内篇第四に含まれる。
- 2) 諸氏百家：中国、戦国期を中心とする時代に輩出した諸種の思想家。またはその典籍。
- 3) 道家：中国古代におこった思想的学派の名称。

#### 【‘わんりい’の原稿を募集しています】

原則として、2月と8月を除く毎月発行の会報‘わんりい’は、会員の皆さんの原稿でまとめられています。体験された楽しい話、アジア各地で見聞した面白い話などなど気楽にお寄せいただければと願っています。

\*紙面の都合上、掲載までお待ち頂くことがあります。また、作者のご了解の上、余儀なく手を入れたり、カットさせて頂いたりすることもあります。

八仙の二人目の人物は、前号で紹介した呂洞賓の先生としても知られている名高い漢鐘離を取り上げたいと思います。

漢鐘離という名の漢は、彼が漢代の人物だったことに由来し、鐘離が苗字です。漢鐘離は陝西省の出身で実際の名前は鐘離樞と言い、父、兄、彼いずれも漢王朝に仕える将軍でした。

言い伝えでは、鐘離樞が将に母親から生まれでるとき、高さ数丈の光が部屋に差し込んで誕生したそうです。そしてその赤ちゃんは生まれたばかりというのに三歳ほどの子供のような大きな体でした。顔もつるりとして生まれたばかりの赤ちゃんのようではなく、産声も上げなかったといわれます。

そして、生後幾日か経て突然口を開き「紫府で遊び、名は玉京で書く」(身游紫府、名書玉京)と言い周りの人々をびっくりさせました。「紫府」「玉京」とは、天帝が住んでいる宮殿のことで、自分は天帝の身边にいる神の一人だということを暗に意味していたのでした。父親は、この子はただの人間ではないと信じ「樞」という名前を付けました。

鐘離樞が成長すると、身の丈八尺、目光鋭く、髯も美しい、堂々たる体躯の男になり、漢王朝の将軍に選ばれました。

或る時、漢は吐蕃の軍勢に攻められ、鐘離樞は朝廷の命令で大軍を率いて吐蕃へ遠征しました。しかし鐘離樞が功績を積むことを嫉んだ大臣の陰謀で、鐘離樞には激しい戦いには耐えられない体が病弱か高年齢の兵士を組み合わせた2万の兵士が分け与えられました。しかしそのような大臣の陰謀は鐘離樞の知るところではなく、戦いの序盤でこそ鐘離樞の軍隊は勢いよく敵を攻撃しましたが、間もなく情勢は悪化し、兵士たちは討ち死にしたり、負傷したりして負け戦となり、鐘離樞は只一騎で山の方へ逃げざるを得ませんでした。そして山で道を失い迷っていると、自らを東華先生と名乗る、身なりも相貌も奇妙なお坊さんが現れ、「將軍よ、わしはこの山に住んでいる。わしのところに来ないか？」と鐘離樞に訊ねました。

鐘離樞はそのお坊さんが自分の身分を知っているのびっくりして、「なんでこの深い山に住んでいるお坊さんが、私の名前や身分を知っているのか、きっとただのものではない!」と思いました。そうして、疲れ果て飢え、しかも騙された悔しさいっぱい鐘離樞は東華先生の後をついて行きました。それ以降、鐘離樞は先生から長生の秘訣、鍊丹(辰砂を練って不老不死の薬を作る)の火加減、及び青龍劍法(青龍刀を使う技)など様々な神仙の方術を教わり、遂に名高い仙人になりました。

中国に道教の一派である全真教は鐘離樞に「正陽祖師」という尊称を与え尊拝しています。

実は漢鐘離のその姿は大変奇妙です。大きな体の上に赤ら顔を乗せ、上着の前をいつもはだけて、太っているお腹を剥きだしにし、頭には子供のような二つの髷を巻いて結び、いつも大きな団扇を持っています。

さて鐘離樞については一先ず置いて、八仙の中に片足が悪く、杖を手にしてぼろぼろの服を纏っている人物がいます。この人物こそ民間で有名な鉄拐李です。

鉄拐李が実際はどんな名前だったか、非常に多くの名前があり特定するのは難しいのですが、中国30年代の

大文豪・魯迅は「中国小説史略」の中で彼を李玄と呼んでいます。ここでは李玄と呼びましょう。

伝説によると、李玄は体躯隆々とした大変に立派な青年で、学問を励み、出世を目標にしていました。しかし、その頃すでに科挙制度は腐敗しており、李玄が何回試験を受けても落第するばかりでした。李玄は結局出世の望みを捨て、道教の第一人者として名を馳せていた老子を師にして、華山<sup>注</sup>での修行に専念するようになりました。

ところで、李玄は八仙の肖像画では、足が不自由で杖を突き、ぼろぼろの衣装を纏った目を背けたくなる醜い姿で描かれます。どうして李玄はそんな姿に描かれるのでしょうか。

或る時、師匠と行脚へ行く約束をし、自分の肉体から魂を乖離させ、師匠の許に行きました。出発前、李玄は



鐘離樞

弟子に「私のこの体をよく守っててください。もし七日経っても私が帰って来なかったら、それに火を付けて焼いてください」と頼みました。

ところが、六日目に、弟子の許に母親が病気で危篤だという知らせが届きました。弟子はあれこれと悩んだ末に李玄の体を焼いて、急いで里帰りしました。七日目に李玄の魂が戻ってみると、身体はどこにも見付からず、弟子の行方も分かりません。魂はふわふわと漂い気持ちが落ち着きません。

焦ってあたりを見回しますと木の下に死体が一体あるのが目に入りました。李玄は「自分のものが見付かるまでとりあえずこの体を借りよう！」と心を決め、この死体に滑り込みました。しかし、人の死体を借りて蘇った李玄が立ち上がって見ますと、なんとぼろぼろの衣服を着、片足も可笑しいことに気付き驚き慌てました。実は李玄が借りた体は餓死した乞食のものだったのです。李玄は慌ててその醜い体から抜け出ようとしたところ、「真の道は表面を取り繕うことではない、功德を十分に積めば、姿は醜くとも真の仙人になれる」という師匠の声が聞こえ、振りかえってみますと、手に鉄の杖を持った師匠が立っていました。師匠の言葉の意味を悟った李玄は師匠から鉄の杖をもらい、その姿のままで修業を続けることにしました。

李玄は鉄の杖のほかに、霊薬が入っている瓢箪を背負っており、病気に罹った人々に薬を分け与えてくれたそうです。

かつて中国では貼り膏薬を「狗皮膏薬」と呼んでいました。以下はその謂れです。昔、河南省の安陽のあるところに膏薬を作る心の優しい王さんがいました。或る日、王さんは町に出掛けると、足が不自由で、体から耐え難いような臭いを発する乞食に出会いました。乞食は王さんの前に来ると、足を伸ばして「わしの足を治してくれないか。」と言いました。「よろしい。治して上げましょう」と、王さんは全く嫌な表情もせず膏薬を取り出し「この膏薬を使ったら明日は必ずなおるよ」と乞食に言いました。しかし、翌日、町でまた乞食に出会い、「足は好くなったかね」と訊ねると「いや、好くなるどころか、もっと悪くなったよ」と乞食は答えました。王さんは大変恐縮して、「もっとよく効くものと換えましょう。明日はきっと良くなるよ」と膏薬を取り換えて帰りました。しかし、

翌朝、玄関を開いてみると乞食が門のところに座っており、王さんの顔を見るや罵り始めました。

「偽の薬で人を騙す、心のない薬屋じゃないか!」。王さんは乞食の傷を見ると、不思議なことに傷は前より大きくなっていました。このようなことは今までにはなかったことでした。王さんは恥ずかしく思い「もう一回良いものを張り直すからどうぞ家に入ってください」と言いました。すると何処からともなく一匹の大きな犬が乞食に飛びかかって来て、乞食の足を噛んでしまいました。王さんが急いで乞食の杖を取り上げ渾身の力を込めて犬に振り下ろすと、犬はただちに倒れて死んでしまいました。



鉄拐李(李玄)

王さんが途方にくれていますと、乞食は「早く良い薬をもって来い」と王さんに催促するのです。王さんは乞食の声に慌てて家に入り、薬を調合して乞食のそばに戻ってみると打ち殺された筈の犬の姿は何処にも見当たらず、犬の皮の切れ端だけが何枚か残っていました。王さんはびっくりして立ち竦んでいると、乞食は自ら王さんが持ってきた薬を傷につけるとその上を犬の皮で被いました。何をしているのかと王さんが訊いてみようとする、乞食は薬のついた犬の皮を外しました。と、不思議なことに足の傷はすっかり治っているではありませんか。王さんはまたまた吃驚仰天して、薬のついた犬の皮を手に取りると呆然と見入るばかりでした。しばらくしてやっと我に返りましたが乞食の姿

はもうはるか遠い彼方に小さくなっていてどうにかやっと瓢箪を背負った後ろ姿でそれと知るばかりでした。そしてその後姿を見ているうちに、王さんは棒で頭を叩かれたかのような強い感動が頭を走り突如、悟ったのでした。

「きっと、あの有名な李玄先生が良い薬の作り方を教えに来てくださったのだ!」

王さんは李玄先生に見習って狗の皮に薬をおいた膏薬を患者に使って見ますと王さんの薬の効果がいっそう高まる事が分かりました。そして王さんの膏薬は、李玄先生の発明だという話が広まって評判になって行ったということです。

注) 華山(Huà Shān)は、中国陝西省花陰市にある険しい山。道教の修道院があり、中国五名山の一つで、西岳と称する。フリー百科事典『ウィキペディア(Wikipedia)』



「みんなで環境保護」 孫 恵珍 ～画集 金山農民画法制作作品集・2009 より～

いよいよ上海万博の開幕です。何年もかけて国を挙げて準備してきたお祭りですから、どんなにか晴れやかなことでしょう。

あれは2007年の夏、私達家族が住んでいた上海をそろそろ去ろうとしていた頃のこと。子供たちと科学技術館を訪れ、張芸某(チャン・イーモウ)が監督となり制作された上海万博のプロモーション用フィルムを観る機会がありました。上映時間は確か10分ほどだったでしょうか。

黄浦江沿いに万博会場がどんな風に設置されるのかを俯瞰で見せてくれたり、万博開催国として外国からのお客様をこんな風に迎えようというインストラクショナルな場面があったり。文章にするとありきたりな内容も、チャン監督のうっとりするようなドラマチックな表現法によって、見ている者の心を沸かしたさせるショートムービーに仕上がっていました。

ただ美しく仕上がっているだけでなく、大衆の愛国心やプライドやリーダーシップ、そんな国を挙げてのイベントの原動力になるものを刺激するフィルムでした。私はそのひとコマひとコマに中国らしさを大いに感じ、なぜか嬉

しくなりました。上海を去りがたい気持ちが一層強くなったのを思い出します。そのチャン監督の、優しくも強く大衆にうったえるフィルムは、農民画のはしりといわれる、1950年代に農民たちが描いていた絵を彷彿とさせます。

3月の終わりに、万博をあと1ヵ月に控えた上海の街に行ってきました。長居はできませんでしたが、それでも街と人が万博に向けてエネルギーを放っているのを感じるのには充分でした。街中あちこちでメイクアップ工事をしているのは周知のことでしたが、飲食店が日本とほぼ同時期に全席禁煙をうたい始めたこと、コンビニでレジ袋代を請求されたことには衝撃を受けました。通りや公園、店の中のどこにでも「环保」(環境保護)の2文字が掲げられ大波が押し寄せるが如くの徹底ぶりです。

さて、絵の中の農村にも環境保護の波が来ています。家で使ったカラの電池はちゃんと専用の回収ボックスに入れてリサイクルをしようとしていますし、エコバッグを手に提げ歩く人もだんだん増えているようですね。

青い空、さえずる鳥。画の如く美しい環境を残そう!というスローガンが聞こえてきそうな作品です。

yú qíng cán xīn  
松本杏花さんの俳句「余情残心」より

まなうらに赤子の笑顔白牡丹

shuāng tóng yùn ài lián  
双瞳韞爱怜  
yīng ér ǒu rán lù xiào yán  
婴儿偶然露笑颜  
shèng jié bái mǔ dān  
圣洁白牡丹



武具飾る息子はパパになりけり

kuī jiǎ shì ǒu rén  
盔甲饰偶人  
màn shēng xì yǔ hōng sūn sūn  
曼声细语哄孙孙  
wú ér chéng fù qīn  
吾儿成父亲

季语：牡丹、初夏。

赏析：中国疼爱孩子常比喻说：含在嘴里怕化了、捂在怀中怕热了、等等。而日本则比喻说：把孩子放在眼里都不觉得痛。此首俳句中的上五”双瞳韞爱怜”即此意、为日本典故。

人之初、性本善。孩子都是天真无邪的、犹如圣洁的白牡丹花一样。作者将爱孙的笑容与白牡丹相比、可见其荣宠爱之心多么深厚。

可见作者的取舍能力之高深。

季语：盔甲饰偶人日本有在端午节给偶人穿铠甲、戴头盔的习俗、比如在神功皇后、钟馗、金太郎等偶人上装饰大刀等。总之、既然是男孩节、总要为培养孩子的阳刚气质动脑筋。

赏析：以前都是作者哄儿子、如今看到儿子哄孙子、心中自有一番感触。自己老了吗？儿子能成为合格的父亲吗？当端午节看到儿子的举动时、作者放下心来。

生活小事、在作者笔下却雕琢成了诗、可见俳句在日本已浸透社会的方方面面。

アジアを読む(66)

経済ってそういうことだったのか会議

佐藤正彦・竹中平蔵 著  
日本経済新聞社

竹中平蔵氏と佐藤正彦氏の対談形式で、経済が分かったような気になれる1冊。佐藤氏は、「だんご3兄弟」の作詞

「経済の取引という実利を通して結びついていった地域」なんだそうだ。

もやっちゃんクリエイターで、もともと電通でCMを作っていた人だけに、鋭い切り込みで竹中氏に経済を語らせる。

意識せず読み始めたのだけど、第六章「強いアジア、弱いアジア アジア経済の裏表」にさしかかり、「中国を読む」の1冊に決まっていた。

この章で竹中氏が佐藤氏にこんな質問をしている。

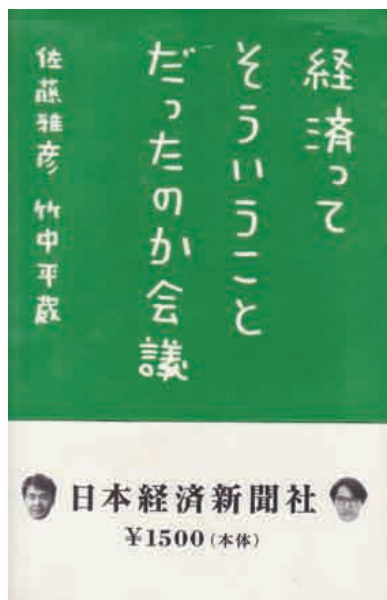
「佐藤さんは、自分がアジア人であるということを実感されることってありますか。」

対して佐藤氏。

「いえ。正直言いますと日本人としての意識はあるけれども、アジア人というのはいないですね。」

多くの日本人の正直な実感だ。

ちなみに、ヨーロッパは言語の起源が同じという意識で繋がっている。けれど、アジアは漢字で繋がっているとはいづらいし、宗教も違う。ひとつ言えることは、アジアは



例えば、1980年代以降のアジアの経済発展に日本が関係している。日本が機械や部品を輸出したことで、日本の技術がアジアの発展途上国へ広がり、結果「世界の生産基地」としてアジアの発展基盤が出来上がっていく。冷戦時代の数々の戦争から解放され、「みんなで豊かになりたい」と前向きに人々が働いたことも大きく影響していた。

ベトナムに代表されるように、アジア人は「明日死ぬかもしれない」という状態から、「今は頑張ればテレビだって買える」。この落差が、経済至上主義になりそうな怖さを持つ反面、アジアのパワーの一因なのかもしれない。

竹中氏が、タイの元首相の言葉を引用してこう言っている。「『戦場から市場へ』と。昨日まで戦ってきた相手と今度は商売する。」

この「したたかさ」が、アジアのパワーなのだ。

(真中智子)

## 【'わんりい'活動報告】

### クッキーと生チョコの会

2010.4.17 場所：三輪センター

講師：足立晃一 参加：13名

'わんりい'の活動の折々に、美味しい生チョコやクッキーを差し入れてくださる足立さん。今回は'わんりい'の活動としては異例の洋菓子づくりの講習会でした。はるばる、茨城県銚田市からお出掛けくださり、クッキーと生チョコそれぞれ4種類、作り方のコツや、洋菓子は出来上がった姿の美しさにも心配りして作るなど洋菓子づくりの心構えなどの話も加えながら教えてくださいました。

なんととっても豪快な手さばきは感動モノでした。

これまで'わんりい'として40回を超えるアジア料理の活動をしてきました。どこの国でも手が美しく力強く動き働いていました。お菓子作りも手が重要な料理道具のようです。

今回は、オープニングが小さいのでお土産無しで食べるだけのはずでしたが、会場の利用時間目いっぱい17:00直前まで焼き続け、頑張ったご褒美のお土産が参加者それぞれに沢山ありました。三輪センターには部屋から出たい匂いが立ち込めて、突如'わんりい'お菓子工房が出現したかのような感じだと思います。

三輪センターの大きな窓の向うに、銀色の雑木の新緑が優しく広がり、それも楽しんだいい一日でした。

(報告：田井)



**コツ①** クッキー種の両サイドに物差し状の細い板を置き、その上に渡した麺棒で種を延ばす。均一な厚さに種を延ばせる。

**コツ②** クッキーの上にインスタント珈琲の粉少々を溶かした卵黄を塗る。美味しそうな焼き色になる。



**コツ③** 棒状に延ばして同量に切る。大きさが揃うと見た目にも美しい。洋菓子は姿の美しさにも心配りをする。

## おいしくて楽しかったクッキーと生チョコの会

三和 理香

4月17日、三輪センターで開かれた「お菓子づくりのブログに教わる「美味しい手作り/クッキーと生チョコの会」に参加させていただきました。

私は多摩地域の情報を発信する地域新聞のアサヒタウンズ(3月廃刊)にあり、5年ほど前に町田担当となった時、わんりいさんの取材を通して田井光枝さんに出会いました。その後も中国語で歌おう会のこと、音楽会の紹介などをさせていただきました。わんりいさんの催しを原稿に書きながら、楽しそうだなあと感じていましたが、それを実感したひと時でした。

今回はクッキーと生チョコの作り方を田井さんの山のお仲間である足立晃一さんから学ぶプログラムです。長年洋菓子の仕事に携わっておられた足立さんの手さばきの見事さに感動しました。動きに無駄がありません。お菓子づくりのさまざまな道具も実際に使いながら、目の前で教えてください、勉強になりました。棒状にしたクッキー生地を均一に切る時は切った生地をひとつひとつ計りに乗せて同じ重さにすることや、球体のチョコレートに中身を入れた後に口の部分をふさぐ細かい作業も一時間も二時間もかけて仕上げていくということも初めて知りました。ただ美味しい～と言ってぱくぱく食べていたこれまでの日々を少々反省……。

サブレ・パリジャン、サブレ菊型、ガレットブルターニュ、

和三盆スノーボールが次々と香り高く焼き上がり、生チョコは4種類も完成したころは、お菓子屋さんになったような気持ちになりました。

忘れてはいけないのが、ランチタイムです。春キャベツ、ジャガイモ、玉ねぎ、トマトなど野菜がたくさん入った牛肉と春野菜のシチューは野菜の甘みと柔らかく煮込んだ牛肉が口の中で溶けました。サラダも梅酢入りの特製ドレッシングがレタスやニンジン、パプリカ、オリーブなどにあっという間にさわやかでした。

わが家に戻って夕食後、クッキーとチョコレートのデザートを心ゆくまで楽しみました。少しずついただき、余韻を長く楽しみたいと思っています。参加させてくださり、本当にありがとうございました。



春野菜たっぷりの、アフリカ・ケニアの牛肉とキャベツのシチュー



## カンボジアの村の暮らし (その1)

川口洋一 (NPO団体「カンボジアこどもの家」会員)

この5年ほど私は毎年9月に女子大生を連れてカンボジアに出かけます。とはいえ、ごく限られた場所で、一つはタイとカンボジアの国境の町ポイペト近郊の村、もう一つはアンコールワットで有名なシェムリアップです。

実は、ポイペトに近い村々では子供たちの人身売買がかなり頻繁に行われています。人々の無知と貧困に付け込んで行われる人身売買を止めようと、日本人の栗本英世さんとカンボジアの人たちが協力してNPO団体「カンボジアこどもの家」をつくり、小学校・中学校の教育支援や孤児の支援を行っています。

栗本さんのことは、中学2年の英語教科書「NEW CROWN」にカラフルなクメール文字のポスターを作って識字教育を実践した日本人として取り上げられています。ご存知の方もいらっしゃるかと思いますが、この活動を通して私が目にしたカンボジアの様子を皆さんにお知らせし、一緒に考えていただければ有難いことです。

### 【学校】

カンボジアでは1970年から30年近くにわたる内戦、特に1975年から1978年のポルポト支配の時期に教育システムが徹底的に崩壊されました。世界中から援助の手が差し伸べられていますが、都市部に集中しています。援助が都市と農村の教育格差を拡げています。

村の学校の校舎は、2種類あります。古い校舎は木の柱に壁も屋根もわらを葺いた粗末な建物です。建築資材は手近なところにあるものばかりなので2教室の校舎の建築費用は数十万円です。しかし民家のように高床式ではないので、モンスーン気候の中ではすぐに傷んでしまい4年から5年すると建て替えなければなりません。

新しい校舎はブロック造りでトタン屋根、40人収容の教室3つというのが標準です。こどもの家の資金と村の人々の勤労奉仕で作られる校舎の建築費はおよそ200万円です。教室に電灯はなく、自然採光だけなので教室の中は薄暗いです。教室の数も先生の数も足りないのので、学校は2部授業です。子供の労働力を当てにしている多くの家庭にとっても2部授業である必要があるのかもしれませんが。

カンボジアの子供は良く働きます。男の子は牛やヤギといった家畜の番から野良仕事、女の子は小さい子の面倒見や家事の手伝いです。その合間に学校に来ているのです。年齢が上がって仕事ができるようになると、だんだんと学校へ行く暇がなくなります。

1年生で150人在籍していても、6年生は45人と3



カンボジア王国バンテアイミエンチェイ洲ツールボンロー村の小学校にて  
2008年9月8日 撮影：辻 千恵美

教室で歓迎してくれたカンボジア・ツールボンロー村の小学生。入学年齢が決まっているわけではなく、学校に初めて来た時が1年生なので年齢はまちまちだ。

分の1以下になっています。授業はクメール語と算数が主であと社会と理科を少しやるようです。音楽や図工といった芸術系の教科はありません。

教育省から先生に支払われる給料は月50ドル程度です。4人家族の場合1ヶ月の生活費はおよそ100ドルで、50ドル足りません。不足分を稼ぐための一番手っ取り早いアルバイトは塾です。カンボジアの小学校では1年生から進級試験があります。進級試験に出そうな問題を塾に来た生徒に教えます。裕福な家庭の子は容易に進級できますが、貧乏な家庭の子はなかなか進級できず、何年も進級できないといやになって学校へ行くのを止めてしまいます。

問題は学校を卒業してからです。村には小さな縫製工場がいくつかある以外は取り立てて工場らしい工場はなく、バイクタクシーの運転手が男の職業としてはポピュラーです。そこでタイへ出稼ぎに行きます。が、タイの就労ビザは簡単に取得できませんし、お金も払えないので、国境の地雷原を抜けて不法入国していくことになります。タイでは安い賃金で、きつい、きたない、きけんな職場で働いています。不法滞在が見つかりと稼いだお金を没収されて強制送還されます。でもカンボジアでは仕事がないので再び不法入国を繰り返すことになってしまいます。

この悪循環を断ち切りたいと「こどもの家」では「しごと学校」職業訓練校を始めました。男性は自動車修理や大工仕事。女性はミシンを使って袋物の縫製作業や腕輪、ネックレス、ストラップを手作りしています。これらの品物を日本で売って作り手の生活費と「こどもの家」の活動資金にしようという目論見です。しかし、カンボジアに対しては、もうそろそろ援助ではなく投資をして、カンボジア人の仕事の場を創っていく段階のように思います。

バレンタインデーとは、愛する人が健康でそばに居ることを感謝する日であり、愛されている喜びを感じる日です。幸せな、希望があふれる日です。今年のその日が来るまでは、私にとってもバレンタインは、そういう日でした。

その日、私たちの家族は悲しみに包まれました。私たち家族にとって最もつらい思いの日になりました。私が愛し、尊敬してやまない叔父の行方が分からなくなったのです。その日から既に2ヶ月近くが経ちましたが、彼の行方を知る人は居ません。行政機関、警察等による努力も空しく、叔父さんについて誰からも情報はなく叔父さんがどうなったかを示すものは何もありません。ケニアで誰かが何の痕跡も残さずに行方不明になることは難しいことです。誘拐もそんなに頻繁に起こることはありません。もし誘拐なら、一週間以内に身代金の要求があるのが普通です。しかし叔父さんはもう2ヶ月近く行方不明なのです。電源の切れた携帯では、GPS機能も役に立ちません。私たち家族は、最悪のケースを考えるようになりました。

叔父さんのことを話してみます。叔父さんの職業は、ペンキ職人で石工です。地元の工事現場や個人から仕事を受注して生計を立てていました。奥さん(私の叔母)は、家事と4人の子供を育てている専業主婦です。叔父さんが行方不明になったことで家族が更に困った状態に置かれることになったのは、その失踪の時期です。長男は、今年の4月から新大学生。長女は、去年の11月に高校を卒業し、今年から短期大学に入学予定。次女は小学校を卒業し、お父さんの行方が分からなくなった次の日の2月15日に(日本でいうところの)中学校へ入学しました。一番下の次男は小学生です。

家族が一番お父さんを頼りにし最も教育費が必要な時期なのです。専業主婦である叔母さんが、女手一つで家族を支えていくのはとても大変です。私は神様に尋ねました。「どうして今なのですか?」と。でも神様はその答えをくれません。仕事を得るのさえも困難で、社会に蔓延している貧困にも屈せず叔父さんは、これまでずっと家族を支えてきました。彼は様々な苦勞を一つずつ克服しながら、家族を勇気づけ支えて来ましたし、人に助けを求めることもありませんでした。こつこつと仕事をし、子供たちにきちんとした教育を受けさせることを自分の目標と考えていました。家族が皆で協力し、暖かく幸せな生活を送っていました。私が叔父さんと会うときはいつも叔父さんの助言に耳を傾

け、夢や人生の目標を話し合い、話し合ったことを心に刻んできました。彼から学ぶことは沢山ありました。私の今があるのも叔父さんの貴重な助言があったからです。

叔父さんの失踪はこのようにしておこりました。

2月14日の日曜日、家族はいつものように目覚めました。そしていつものように教会のミサに参加しました。ミサの後、教会の委員をしている叔父さんは教会に残りました。そして午後1時頃、昼食を取るために家に帰ってきました。昼食を済ませた2時頃、叔父さんは、次女が明日から高校へ入学するというので、その準備の為、家族が住んでいる村の中心・オザヤタウンと呼ばれるところへ買い物に出掛けたのです。叔父さんはそこであるお客さんからお金を受け取り、それを娘の学費にする予定でした。

ケニアの高校は4年制で、生徒は親元を離れ学生寮に入ることが多いのです。1学期は3ヶ月間あり、1学期が終わるごとに1ヶ月間の休みに入り家に戻ります。ですから、初めて高校に通いだす娘の為に、寝具・制服などを揃えなくてははいけませんし、諸々の学用品を買い揃えなければなりません。お金を受け取ってそれらの買物に行こうとしていたのです。叔父さんが居なくなる前日の2月13日も家族は、そのような買い物に家族で出かけていました。

3時頃、オザヤタウンでそのお客さんと会い、お金を予定通り受け取った叔父さんは、叔母さんに電話をしています。これが夫婦の最後の会話になってしまいました。

3時半頃に叔父さんは靴の修理屋で目撃されたのを最後に行方が分からなくなりました。オザヤタウンは叔父さんの家からたった15分しか離れていない、誰もが叔父さんのことを知っているところなのです。

夜7時になっても帰らない夫を心配して、叔母さんは彼に電話をかけました。携帯電話の電源は切れていました。それから親戚や警察にも連絡をしました。それが、地域を巻き込んでの必死の搜索の始まりです。茂み、川、病院、警察などあらゆる場所を搜索しましたが見つかることなくその後2ヶ月間、家族を深い悲しみと苦痛に陥れました。

お酒好きでも、喫煙者でも、他に女性がいるわけでも、犯罪を犯したこともない彼が、誰もが彼を知っている地元の小さな町でいなくなるのでしょうか?家族は悲しみに沈み、どこで何が起こったのか誰も理解で

きません。行方を知る手掛かりも情報も何一つないので。

今私たちが一番心配する事は、突然父親が居なくなってしまった子供たちのことです。家族が一番お父さんを必要としている最も教育費が必要な時期なのです。叔父さんの夢は、4人の子供たちそれぞれにきちんとした教育を受けさせることでした。残された私たちにできることは、叔父さんの夢を叶え、子供たちに教育の機会を与えてあげることです。貧困の中にあつて、突然起こってしまった叔父さんの失踪に対してどのようにしていけばいいのでしょうか？

叔父さんの子供達と話す機会がありました。私は彼らを励まし、「お父さんが望んでいたことは何だったか？」を考えるように言いました。子供達は決意を新たにし、お父さんをがっかりさせないようにすることがお父さんへの一番の贈り物であると信じるようにしました。

みなさん、どうか子供達の夢を叶えさせて下さい。叔父さんの子供達は一生懸命努力することを厭わない子供達です。ケニアの将来を担う子供たちです。叔父さんは、子供達が皆さんに支えられて夢を叶える事が出来たなら、深く感謝し、どんなにか喜びことでしょう。彼が手塩にかけて育てて来た子供達の夢が叶えられるように力を貸して欲しいと願っています。

## ‘わんりい’おたより会員の皆様、そして入会をご希望される皆様へ

毎年4月から新年度になります。

おたより会費の納入をよろしくお願ひします。年会費：1500円 入会金なし

郵便局振替口座：0180-5-134011 ‘わんりい’

‘わんりい’の名は、‘万里’の中国読みから付けられました。文化は万里につながるの想いからです。

主としてアジア各地から日本にいらっしゃってる方々と協力し、講座、研究会、鑑賞会、展覧会等の開催など文化的交流を通して国や民族を超えた友好を深めたいと願っています。また、2月と8月を除いて年10回、会報‘わんりい’を発行し、情報の交換に努めています。

▲入会はいつでも歓迎しています。

▲活動の様子は、おたより又は‘わんりい’HPをご覧ください。問合せ：042-734-5100（事務局）

## どこの国でも外国語は難しい!!

山口イツ（中国湖南省/長沙民政学院にて）

### 〈或る日の授業から〉

ちょっと面白い作文

1、「ちちがおおきいです。」えっ？誰の乳が大きいんですか。→「父は 背が高いです」

2、はははははのははのはをせわします。

→「母は母の母の歯を磨いて上げます。」（体が不自由ですから。）

学生の聴解（聞き取り）から（青色下線部分が聞き取り）

1、震度4は寝ている人でも ほとんどの人はめをさがすような強さです。

2、震度4は寝ている人でも ほとんとめをさがしています。

3、震度3は建物の中にいる人の ほとんどがもれている 感じがします。

4、震度3は建物の中にいる人の ほとんどが入れている 感じがします。

5、震度というのはその場所の地震の 入れの強さを表したものです。

6、震度というのはその場所の地震の ゆるる強さを表したものです。

7、震度というのはその場所の地震の あわゆる強さを表したものです。

8、震度というのはその場所の地震の ゆめの強さを表したものです。

9、震度というのはその場所の地震の いへの強さを表したものです。

「やいゆえよ」、「らりるれる」の聞き取りが難しいのですね。それぞれの国や民族には苦手な音があるようです。

## 作ってみよう！簡単で美味しいクッキー!!

美味しい生チョコとクッキーの会レシピより

### ★サブレ・パリジャン (Sablé Parisien)

#### ■材料

バター ..... 200g  
上白糖 ..... 63g  
塩 ..... 少々  
卵黄 ..... 2個  
牛乳 ..... 25mL  
薄力粉 ..... 300g

#### ■作り方

- ①薄力粉は2回ふるう。
- ②ボールに室温に戻したバターを入れ、砂糖を入れ混ぜ、塩、卵黄、牛乳、薄力粉の順で入れ、手でよく混ぜながらクリーム状にする。
- ③長さ20cmの円柱形にのばし、ラップに包んで冷凍庫で30分以上ねかせる。
- ④筒状のまわりにグラニュー糖をまぶす。
- ⑤6mm厚さに切り、クッキングシートをしいた天板に並べる。
- ⑥焼き時間 180℃で10分～15分位

聖地アヌラーダプラ ①

前号で書きましたようにスリランカには7件の世界遺産が登録されています。

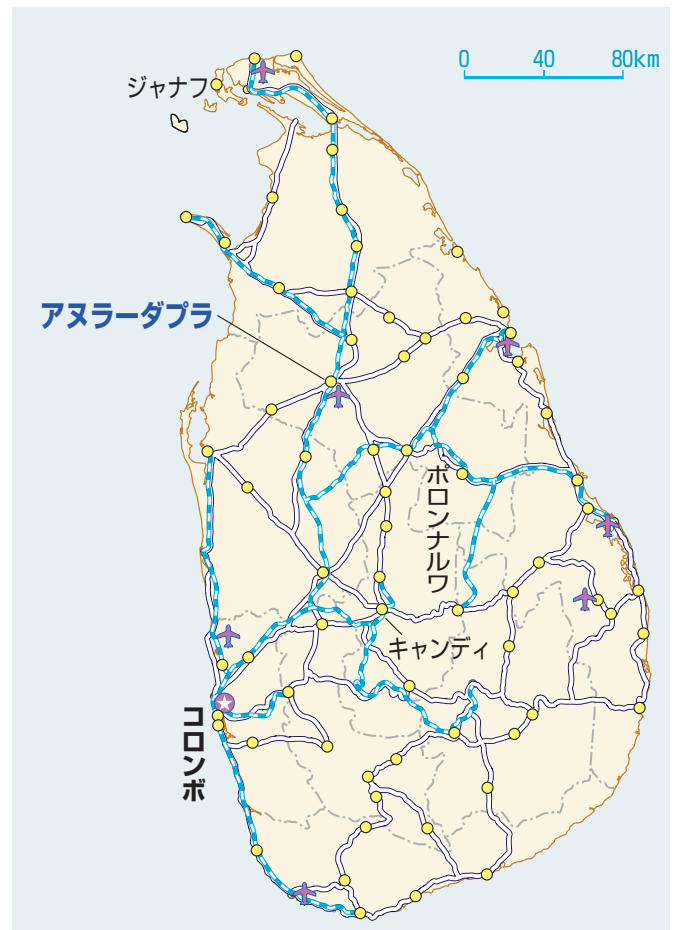
最初は、「聖地アヌラーダプラ」を紹介しましょう。世界遺産名に‘聖地’と冠が載せられている理由は、アヌラーダプラというのは特定の一遺跡の名称ではなく、これまでも僕の文章に何度もでてきた都市の名称(右の地図参照)で、約50km<sup>2</sup>に及ぶアヌラーダプラ市街全域に仏教遺跡が散らばっているからです。アヌラーダプラ市内を歩き回っていると、街角を曲がれば何かしらの遺跡に出会います。100m近いダーガバ(仏舍利塔)が市内に点在し、何処に行っても見る事が出来ます。つまりアヌラーダプラは世界遺産に登録された遺跡都市であるということなのです。

しかし、別の角度から見ると遺跡都市であると同時にスリランカ北部最大の都市でもあり、前々回まで連載していたジャフナ珍道中でも、アヌラーダプラを通過してタミール系住民の多い地域に入って行ったようにアヌラーダプラは北部地域の交通の要衝でもあるのです。

さあ皆さん、「聖地アヌラーダプラ」へ出発です。アヌラーダプラは首都コロomboの北東約210kmに位置します。コロomboからは鉄道ならば約5時間、インターシティバスだと4時間半ほどです。インターシティバスを利用すれば、定員制だし、乗車時間は少ないし、しかも冷房が効いています。どちらの乗り物で向かいましょうか。

時間に余裕があり、且つ1車輦に乗車している外国人は只一人だけでも平気だという方には鉄道が絶対にお勧めだと僕は思います。とはいえ、2009年の時刻表では一日に5本しかありません。ある程度の覚悟は必要かもしれませんね。それとお勧めしておいてすみませんが、鉄道は2等車と3等車しかないのでインターシティバスのような定員も無ければ冷房もありません。定刻通りに走る事も滅多にありません。

けれども朝晩の通勤と通学時間以外は満員になるほどは混まないし、窓は開けっ放しなので土や木々等のスリランカの芳しい香りのする風が入ってきます。更に僅かですが料金が安いです。2009年時点でインターシティバスが370ルピー(約440円)なのに対して、鉄道は2等が290ルピー(約350円)、3等が160ルピー(約190円)になります。この金額差は日本人には大した違いではないかもしれませんが、スリランカのローカル食堂でならばカレー1食と紅茶を1杯飲んでもお



釣りがきます。何よりも僕がお薦めしたいというのは以下の理由です。

1、インターシティバスはコロomboを出発したら最後、アヌラーダプラに着くまで乗客の乗り降りは殆どありませんから隣席に座る人は先ず変わりません。鉄道では駅に停まる毎に乗客の乗り降りがあり、隣席や周囲の人達が絶え間なく入れ代わりますからスリランカ人を観察するまたとない機会になります。つまり乗客は時間帯によって通勤客や学生、買出しのオバチャン、お坊さん、行商人等々、中には何をしているのか想像不可能な人まで色々に入れ代わり立ち代りでもとても観察し甲斐があるという訳です。

2、汽車の旅がスリランカ人を観察するよい機会ということはスリランカ人にとっても物好きな外国人を観察する絶好のチャンスという訳で何かとチョッカイを仕掛けてきますから旅の楽しさ倍増です。

3、更に鉄道をお薦めする理由はもう一つあります。インターシティバスでは、これが最高のサービスだとばかりにビデオ映画が放映されるので、窓にはカーテンを下ろしてしまい外が見えません。せっかく料金を払

っているのに、沿道の風景が見られないなんて面白くないと思いませんか。鉄道に乗車すれば窓は開いているし、スピードも驚くほどゆっくりなので風景は見放題です。

アヌラーダブラ行きの列車は、高原地帯にあるキャンディ行きとは違って山岳鉄道の風情はありませんが、途中には前回に紹介したクルネガラや僕の大好きなヤーパフワ(駅名はマーホ)を通るので遺跡のある岩山や、町の様子を見る事が出来ます。

ジャングルの中を走っているかと思うと、突然に椰子林の向こうに丘が見え、そのてっぺんに小さくて白色の仏舎利塔が陽を浴びて輝いているのが見えたり、こちらから手を振ると農作業をしている夫婦が作業を中断して手を振り返してくれたり、沿線で遊んでいる子供達などは手でも振ろうものなら全速力で走って列車を追っかけながら手を振ってくれたり、まるでテレビ番組の「世界の車窓から」のような景色が楽しめますよ。

さて、鉄道の旅は如何でしたか。やっとアヌラーダブラ到着です。それでは早速、「聖地アヌラーダブラ」の話に戻しましょう。

スリランカに仏教が伝わったのは紀元前3世紀と言われていますが、それ以前の紀元前5～6世紀頃にはシンハラ人によって既に国家の形を整え、鉄器を用い、稲作を始めていたと言われていました。紀元前4世紀に当時のパントウーカバヤ王がアヌラーダブラを都と定めました。これがスリランカで最初の都の始まりです。その後、10世紀末にインドからの侵攻によって遷都されるまで約1400年間に渡って首都として繁栄を続けました。

歴史は不思議なものです。アヌラーダブラを繁栄に導いたシンハラ人は、北西インドのアーリア人の血筋を引いていると言われていました。そのシンハラ人を攻めて都を滅ぼしたのが同じインドでも南インド出身のタミール人でした。

仏教が伝わったと同時期に、仏陀がその菩提樹の下で悟りを開いたと言われる、インド・ブッダガヤの菩提樹の小枝がアヌラーダブラに植樹されました。現在でもこの小枝の子孫が枝葉を繁らせています。スリランカの多くの仏教徒はこの菩提樹の下で祈りを捧げるのを生涯の夢と考え、夢をかなえた人々が静寂の中で祈りを捧げる姿が見られます。乗り物が大好きなので鉄道の話で脱線してしまいました。次回にもう少しアヌラーダブラの紹介をしたいと思います。ご期待下さい。

## yè lái xiāng 夜来香

作詞・作曲 黎錦元

n à wǎnfēngchūfēng líng líng  
那晚风吹来清凉，

nà yè yīng tí shēng qī chàng  
那夜鹰啼声凄唱，

yuè xià de huā ér dōu rù mèng  
月下的花儿都入梦，

zhǐ yǒu nà yè lái xiāng  
只有那夜来香

tǔ lù zhe / zhuó fēn fāng  
吐露着芬芳。

wǒ ài zhè yè sè máng máng  
我爱这夜色茫茫，

yě ài zhè yè yīng gē chàng  
也爱这夜鹰歌唱，

gèng ài nà huā yī bān de mèng  
更爱那花一般的梦，

yōng bào zhe yè lái xiāng  
拥抱着夜来香，

wēn zhe yè lái xiāng  
吻着夜来香。

yè lái xiāng wǒ wèi nǐ gē chàng  
夜来香我为你歌唱，

yè lái xiāng wǒ wèi nǐ sī liang  
夜来香我为你思量。

a wǒ wèi nǐ gē chàng  
啊，我为你歌唱，

wǒ wèi nǐ sī liang  
我为你思量。

yè lái xiāng yè lái xiāng yè lái xiāng  
夜来香，夜来香，夜来香。



あわれ春風に、嘆く鶯よ、  
月に切なくも、月の思い出の  
匂う夜来香、花は夜来香 この香りよ。  
恋の夜来香、長き夜の泪、唄う鶯よ、  
恋の夢消えて、残る夜来香、この夜来香。  
夜来香、白い花。  
夜来香、恋の花。  
ああ胸痛く、唄かなし。  
夜来香、夜来香、夜来香

(日本語歌詞：佐伯孝夫)

### 使用済み古切手と書き損じの葉書でご支援を！

日本スリランカ文化交流協会では、スリランカへの教育支援の為、使用済み古切手と書き損じの葉書を集めています。日本の切手、外国の切手など、周りを1cmほど残して切り取り、おついでに折に「わりい」の事務局にお届けくださるか、田井にお渡し下さい。

太陽はゆっくりと傾きかけていた。のんびりとした時間の流れる亜丁村での一日もそろそろ夕暮れが近づき始める時刻だ。村の雑貨屋の片隅にホコリまみれで置いてあった四川の観光名所の写真集を眺めていると、

「あんたの友達が帰ってきたよ」

雑貨屋の主人が声をかけてきた。

ハッとして振り向くと、この土地で私の唯一の友達である「亜丁の少年」が雑貨屋の店先でバイクに跨ったまま笑顔を浮かべていた。狭い村の事だ。昨夜の少年の家で行われたパーティで、私と彼が友人である事は村のみんなに知られているらしい。私は少年に会えたことが嬉しくて顔を輝かせながら戸口に走り出た。

「何処に行ってたの!？」

「仕事だよ。観光客の馬を引いてきたのさ」

なるほど先程まで閑散としていた亜丁村の目抜き通りは、仕事から戻ってきた村人達でにわかに活気づいていた。

バルーン!! バルルーン!! とエンジンの音を響かせて、小さなバイクに跨った少年達が次々に村の下方にある自然保護区の入り口から坂道を駆け登って来る。昨夜のパーティで少年と兄弟のように肩を組んで座っていた、まだ13歳だという男の子が小柄な身体で達者にバイクを操っていた。

「うわ～、あの子カッコいいじゃん!」

こんな山奥の小さな村の住人にとってバイクは結構高価なものだろう。それをまだ子供ともいえるような年頃の少年達まで所有できる村の生活や、昨夜の亜丁の少年があれば大量のビールを気軽に村人達に振舞っていた様子を見ると、やはり亜丁村は自然保護区の観光景気でだいぶ潤っている様子だ。

村の少年達の所作や風貌も他所でみかける素朴な田舎の子供といった様子とは一線を画し、少し長めに伸ばした髪を茶色く染めたりパーマを当てたりと、どこか粋がっているような、悪く言えばちょっと擦れている雰囲気の子供が多かった。ほんの数年前までは山奥で閉ざされていたであろう村の生活に、観光客が運んでくる都会の空気や生活が豊かになった事で都会の学校に出て行く子供達が増え、この山峡の小さな村にも急速に都会の文化が流れ込んでいるのだろう。

それにしても、観光で開かれている村といえば、私が一人で亜丁にやってくる前に当初の旅行メンバー

で訪れた四姑娘山麓の村「日隆」などは、現在世界自然遺産にも登録されている四姑娘山への登山基地として、亜丁村とは比較にならないほど観光地としての歴史を持つ村のはずだ。私があのか村にいたのはほんの2、3日であったが、そこで私が出会った人達はやはり皆素朴な様子で、このような印象を持つ事は無かったように思えた。村の規模が違うために私の目に入らなかっただけなのか、それとも亜丁村の場合は余りに急激に変化した小さな村の経済状況の反動なのだろうか。楽しかった思い出と長い時間の思い出入れにより強い愛着を感じている亜丁村の現実の姿に、私はかすかな違和感と戸惑いをちょっぴり感じていた。

心の片隅では微かにそんな事を思っていた私だが、目の前にいる少年は屈託のない笑顔を浮かべていた。やっぱりこの少年は特別だ。彼には特別に好意を持っている私の鼻目目がそう感じさせているのかもしれないが、昨夜の踊りで光の粒に縁取られているようにみえた少年は、昼間の光の中で出会ってもやっぱり輝いているように私には感じられた。

「ここで何をしているの?」

「ううん別に・・・暇だったから」

これで会話は途切れてしまった。

会えて嬉しい気持ちはいっぱいだったし、話したい事も沢山ある筈なのに、相手はうーんと年下の少年だということに、昨夜はあれ程会話が弾んでいた少年を相手に、今日はなんだか妙に照れくさくて言葉が出てこなかった。

昨夜、雨の中をバイクで送ってくれた少年は、宿に着くと紳士的に自分もバイクを降りて戸口の中まで私を送ってくれた。

「何て言っていていいか上手く言えないけど、また会えて本当に嬉しく思ってるんだ」

薄暗い宿の土間で交わした短い会話の別れ際、親子に近い程にも年齢差のある私に少年はそう言ってくれた。そしてバイクが好きだと話していた私に、

「明日また会おう。君がバイクが好きなら、バイクに乗って一緒に遊びに行こうよ」

と言ってくれたのだ。

いつもの私だったら「ねえ、ねえ! 待ってたよ! 早く遊びに行こうよ～!!」とすぐさま声を上げるところだが、この時は何故だか会話の糸口がみつからず、そうでなくとも先程「30を過ぎた女なんて、この村

じゃ誰も要らないぞ！」などと断言されてしまった雑貨屋の親父の手前、歳の離れた少年相手に舞い上がってる姿を見られるのが癪で余計に言葉が出てこないのだ。何となく言葉に詰っているのは少年の方も一緒の様でお互い笑顔を浮かべるだけで数分が過ぎた後、少年は「じゃあ、行くよ」とバイクを走らせて行ってしまった。

「あーあー、せっかく会えたのに・・・」

少年が去ってしまうと、何も話せなかった後悔にガッカリしてしまった私は宿に戻る事にした。宿の入り口辺りでぶらぶらしていると、道路を2台の車がギューーンと走ってきて宿の庭先に停まり、中から数人の中国人の男性がバラバラと降りてきた。

「你好!!」

私が挨拶すると、車から降りてきた男達が言った。

「やあ！你好！小姐、君はここに泊まってるのか？宿はどんな感じだい？」

「ええ、いい宿よ。安いし、宿の主人は優しいし」

彼らは男性5人と女性1人、子供1人が2台の車に分乗し、北京から四川省にドライブの旅にやって来ているのだそうだ。

この土地の感想を聞かれ、私は話し相手のできた事を喜びながら例によって三年前に訪れたこの土地の美しさに魅せられ一人で亜丁を再訪している事、山の上の宝石のように美しい湖の事などを熱く語っていると、男達は「よ～し、この宿に決めようぜ！荷物を降ろせよ！」と声をあげた。総勢7名の新たな団体客の来訪で宿は俄かに活気付いてきた。

メンバーの一人が持っていた稻城の写真集を見ながら庭先で話をしていると、突然コケーッ!! コケーッ!! ギョワー!! とニワトリがけたたましくに騒ぎ出し、何かと思えば北京メンバーの一人が庭先で放し飼いされていたニワトリを一羽捕まえて絞めていたところだ。呆氣にとられて眺めている私に気付いた男は、たった今、絞めたばかりのニワトリを私に向かって差し上げて見せると「100元だ」とニカッと笑った。宿の主人に交渉して、今夜のおかずを一羽買い取ったという訳だ。

なんと、まあ・・・日本人には絶対に思いつかない食材の調達方に唾然とした私は、思わず成都に滞在していた折に見かけた衝撃の光景を思い出していた。

本来は12日間の旅程で四姑娘山の登山旅行に参加していた私は、旅行メンバーと別れ一人で旅を続

けるにあたり中国でのビザ延長手続きを行っている間、成都のゲストハウスに滞在していた。そんなある日の朝、その日の朝食や旅の間の日用品などを買って求めに訪れた近所のスーパーでは、朝のタイムセールで生きたナマズのつかみ取りをやっていたのだ。

スーパーの中を長蛇の列となって並んでいる老若男女は熱気ムンムン、自分の順番がくるとウジャウジャとナマズの入れられた大きな水槽を囲み、目星をつけた活きのよさそうな奴を素手で捕まえワシワシとビニール袋に詰めていた。詰め終わった袋はその場で係員に秤で計ってもらい値札のシールを貼ってもらうシステムで、水飛沫をはね上げながらピシピシ、ヌルヌルと飛び跳ねるナマズと格闘しながら嬌声をあげ目当てのナマズに挑みかかっているおじさんおばさんのエネルギー溢れる姿の頭上には「新鮮命!!」とスローガンが書かれた旗がはためいているように見えたものだ。

食は生命の源である、食にかけるエネルギーが旺盛である事は即ち生きるエネルギーが旺盛であるという事に他ならないだろう。朝のスーパーで水槽の水しぶきに服が濡れるのも厭わずに、素手でナマズを掴んで騒いでいる熱気溢れる人々を目の前にして呆氣にとられていた私は「日本人は到底この人達には敵わないな・・・」と感じたのだった。

そして今回、思わぬところで再び出合ってしまった「新鮮命!」の中国人魂である。私の拙い中国語の会話で知り得た話では、彼らのグループは北京で旅行者を泊めるゲストハウスの経営者夫婦と子供、その従業員でやって来た社員旅行のようなものらしく、ニワトリを絞めていたのはそのゲストハウスの料理長なのだそうだ。

しばらくして宿の食堂にあたる広い土間の一角にある調理場を覗き込んでみると、料理長は調理補助の仲間と共に持参した食材やまな板、包丁を駆使し、この宿の台所を完全に占領して奮闘中だった。旅行に出るのにまな板などの調理道具まで用意しているのには驚きだ。食堂の丸テーブルには彼らが持参した酒のつまみのような惣菜の皿が置かれ、早くもテーブルに座ってそれらをつつきながらビールを始めていた数人のメンバーが、「さあ!さあ! 小姐も一緒に座って!!」と私をテーブルに招いてくれた。

亜丁に入ってから数日というもの、私が食べていたのは卵とトマトの湯麺のみだ。脇にある調理場で料理長がジャージャーと炒めている料理の匂いが漂い、

テーブルの上に並び始めた料理はとても美味しそうだ。食卓命の中国人魂バンザイ!! である。並び始めた料理をチビチビとつまみながら宴会の開始を待っている北京グループの人達と話していると、宿の庭先に2台のバイクが入ってきた。垂丁の少年が友達と一緒にやってきたのだ。

「あ～！ 私の友達が来た!!」

いぶかしげな顔をする中国人達に「三年前に来た時に友達になった子なの!」と告げると私は勢いよく席を立ち、少年達のバイクに駆け寄って行った。

再び少年に会えたのが嬉しくて表に飛び出し駆けて行った私に、垂丁の少年は同年代の友人の手前なのか、ちょっぴり生意気そうな仕草と口調で私に向かって「乗ってみる?」とバイクを指差し「うん!」と答えた私にバイクのキーを手渡した。

キーを差込みセルモーターを回すとバイクのエンジンがうなり声を上げた。バイクに乗るのはずいぶん久しぶりだったが、以前は400ccの中型バイクに乗っていた私だ。小型バイクなんて問題じゃない。勢いよく表の道路に走り出すと昼間歩いた道をバイクで駆け上がって行った。道路の脇にある金色の麦畑が視界の端を流れていく「うひゃあ！ 気持ちいい!!」

道の小石をはね飛ばしながら垂丁村の道を先程村を見おろした峠の上まで一気に駆けて行くと、バイクを傾けてUターンしようとしたその時だ。舗装されていない坂道の砂利に滑ったバイクはズザザッ!と音を立てて派手に転倒した。「いった～い・・・!!」道に投げ出されて擦りむいた手のひらを押しつつ、服のホコリを払って立ち上がった私がバイクを起そうとすると、なんとという事か少年のバイクは転倒した際、道に叩き付けられた左ハンドルの下のクラッチレバーが折れてしまっていた。

「ど、ど、ど、どうしよう～」手のひらの痛みも忘れてうろたえた私は、その場で泣き出したい気分だった。街の中ならいざ知らず、こんな村ではバイク屋などあるわけがない。もしかしたらこの村から100キロ程も離れた稲城まで行かなければバイクの修理など出来ないかもしれないのだ。少年が日常の足として大事にしているに違いないバイクを、かりてからたったの5分で壊してしまった。

オレンジ色に染まろうとしている垂丁村の空の下で、しょげかえった私は途方にくれていた。

(次号に続く)

## 乞う! ご期待!! あさおサークル祭!!!

今年も、5月29日(土)と30日(日)の2日間、あさおサークル祭開催です。麻生市民館全館使用団体による盛り沢山のプログラムがいっぱいです。(同封のプログラムをご覧ください)さて、'わりい'は下記の参加プログラムです。皆さん、是非ご参加を!

### ① TOKYO万馬一馬頭琴アンサンブル/演奏会 附:アンデスの民族楽器・ケーナの演奏 5月29日(土) 14:30～15:45 於:大会議室 参加無料

TOKYO万馬一馬頭琴アンサンブルは、今年も5月上旬、モンゴル国の首都ウランバートル市で開催の「国際馬頭琴フェスティバル」に参加・出演します。ますます、力をつけたTOKYO万馬一馬頭琴アンサンブルの演奏です。又昨年に続いて、アンデスの民族楽器・ケーナの演奏が加わります。是非、お家族お揃いでお楽しみください。

出演:西郷美炎子(コンサートマスター)高木和恵 永瀬正博(団長)池谷禎俊山下孝之(ケーナ)



### ② 「中国の民間芸術・農民画/スライドとお話で紹介」

30日(日) 14:00～15:30 於:視聴覚室 参加無料

お話:平野理絵(日本/農民画協会)

中国の農民達によって描かれた農民画。農民画は中国独自の民間芸術です。'わりい'紙上でもご覧頂いている、中国民衆の生活をいきいきと描いたカラフルで楽しい絵画を'プロジェクター'で投影し平野さんの説明によって楽しめます。どんな作品に出会えるでしょうね。





祝 2010年上海万博開催「中国代表女流画家7人展」 入場料：無料

～ 中国の女性画家による絵画(中国画)計70点を展示予定 ～

2010年4月19日(月)～5月28日(金) 月～土(日曜・祝日休館) 10:30～17:30

会場：東京中国文化センター(港区虎ノ門3-5-1 37森ビル1F)

日比谷線「神谷町」駅4番出口より徒歩約5分 または 銀座線「虎ノ門」駅2番出口より徒歩約7分

【出品作家紹介】

励国儀(杭州美術家協会副主席)/張禾(浙江師範大学美術学院教授)/唐秀玲(山東省美術家協会副主席)

王小暉(山東芸術学院教授)/韋紅燕(首都師範大学美術学院教授)/潘纓(中国芸術研究院中国美術創作院専任画家)

劉麗萍(中央美術学院副教授)

- 主 催：東京中国文化センター
- 共同主催：国際水墨画交流協会・亜州友好協会・北京吉彼思文化有限公司
- 後 援：中国国立中央美術学院・学校法人専門学校東洋美術学校  
日本新華僑華人会・日本華僑華人文芸芸術家联合会

◆東京中国文化センターは、海外に派遣された中国政府の文化機構として、2009年12月14日に開所され、中国文化の紹介と、中日文化交流の促進事業を展開しています

●問合せ：☎03-6402-8168 東京中国文化センター



新潮劇院公演 京劇「孫悟空 vs 孫悟空」

中国国家京劇院に所属する唯一の日本人京劇俳優「石山雄太」/日本の若き精鋭アーティスト「中川晃教」/米米CLUBボーカル「ジェームス小野田」/世界に「BUTOH」を知らしめた「大駱駝艦」、各界きっての名優を集めた、一大コラボレーション公演!

- 2010年5月29日(土) ★三蔵法師…中川晃教  
15:30開場 16:00開演 ▲関内ホール(大ホール)、横浜市中区住吉町4-42-1  
S席 8,000円 A席 6,000円 B席 4,000円 高校生以下 2,000円  
※当日券は各500円増 ※横浜市民は各500円引き
- 2010年6月5日(土) ★三蔵法師…張冠玉  
15:30開場 16:00開演 ▲なかのZero(小ホール)、東京都中野区中野2-9-7  
S席 6,000円 A席 4,000円 高校生以下 2,000円 ※当日券は各500円増 ※中野区民は各500円引き  
主催/新潮劇院 共催/飲茶会(中野区)、中国大使館・文化部ほか

出演：石山雄太(中国国家京劇院)/馬征宏/中川晃教[5/29出演]/張冠玉[6/5出演]/ジェームス小野田(米米CLUB)/大駱駝艦/盧思/殷秋瑞/張冠玉/張桂琴/陳浩/于躍/寇然/張春祥

楽師：洪鋼/金虹/許佳/関潔沁 他

問合せ：新潮劇院 <http://www.shincyo.com/ticket.html> TEL/FAX 03-3484-6248



第6回 日中水墨会展

- 2010年6月1日(火)～6日(日)  
\* 6月2日(水)健康講座(展示会のイベント)を開催
- 神奈川県民ホールギャラリー <http://www.kanakengallery.com/>  
横浜市中区山下町3-1 〒231-0023
- 9:30～17:30時(最終日は15:00)
- 問合せ：日本中墨会 事務局 ☎:045-664-378  
<http://www.geocities.jp/manboinsea/exhi.html>

【5月の定例会と6月号のおたより発送予定日】

- 定例会：5月17日(月)13:30～ 田井宅  
\* 活動の計画や準備の打ち合わせなど楽しく相談しています。会員は、どなたでも参加できます。
- おたより発送：5月30日(日)11:00～  
麻生市民館・視聴覚室

【'わんりい' 特別企画】 京劇俳優・殷秋瑞さんが読む・漢詩の会

～長恨歌(白楽天)と古今にわたって親しまれている漢詩いろいろ～

漢詩の美しい音声と流れるようなリズムで漢詩を楽しもう!

\*録音機をお持ちの方はご持参下さい。

場所: まちだ中央公民館・学習室6(8F) 〒194-0013 原町田6-8-1・町田センタービル

期日: 5月12日 時間: 10:30～12:00 参加会費: 1500円 定員: 15名

【予定の漢詩】

楓橋夜泊(張継) / 静夜思(李白) / 早発白帝城(李白) / 望廬山瀑布(李白) / 春望(杜甫) / 春暁(孟浩然) / 長恨歌(白楽天) 他

※望廬山瀑布(李白)は、殷秋瑞さんの指導で一緒に読んでみましょう!

お申込み&問合せ: ☎ 050-1531-8622 (有為楠)

日本では、古くから折に触れて漢詩を楽しんできました。それは日本流読み下しの為、壮麗ながら姿勢を正して読んだり聴いたりするような特別な雰囲気を感じます。今回は、その雰囲気は横において、中国語の音声やリズムの美しさにも漢詩鑑賞の視点を加えて漢詩を味わってみたいと思います。

日本で京劇俳優として活躍の殷秋瑞さんが、俳優として訓練された美声と表現力で、平易なお馴染みの漢詩に加え玄宗皇帝と楊貴妃の悲劇を詠んだ詩として名高い「長恨歌」全編を読んでもいただきます。

漢詩の中国語読みの美しさをご一緒に味わってみませんか。

殷秋瑞 (いんしゅうずい)



1962年、北京生まれ。1973年、京劇俳優養成の最高機関である中国戯曲学院に入学。9年間にわたる全寮制の一貫教育による京劇の厳しい訓練を積む。顔全面に濃厚な隈取を施す豪傑役の花臉役を学び、中国戯曲大学の第一期卒業生として将来を嘱望され卒業する。

卒業後、中国戯曲学院実験京劇団を経て中国国家京劇院に入団し、多くの名優達とさまざまな役柄を演じた。1990年、来日。以来、数多くの舞台を踏むと共に京劇の演出や舞台監督も務めている。豊かな表現力と張りのある美声により文劇(歌中心の劇)と武劇(立ち回り中心の劇)の双方をこなす独特の風格と存在感のある演技で観衆を魅了している。

中国戯劇家協会会員 / 中国演出家協会会員 / 桜美林大学 / 多摩美術大学客員講師。  
得意演目: 「三国志」の曹操、張飛 / 「水滸伝」の魯智深 / 「霸王別姫」の霸王など。

【ご予約ください!】—〈ビデオ上映とお話〉

「黄土高原のヤオトン暮らしと民間芸術」(仮題)

●2010年6月27日(日) 14:00～16:00

●町田市民フォーラム3F・視聴覚教室

町田市原町田4-9-8

JR横浜線ルミネ口徒歩3分 / 小田急線南口徒歩5分

●参加無料 ●定員: 30名

●お話し: 丹羽朋子

東京大学大学院 文化人類学研究室博士課程

丹羽朋子さんは現在、中国・延安周辺の陝北地域の農村に住み、剪纸を中心とした民間芸術と民俗文化について調査しています。現地での「わが家族」、毛さん一家の暮らしをご自身がまとめた映像、現地の人々自身が写した儀礼風習ビデオなどをお見せくださりながら、陝北地域の農村生活や、そこに息づく民間芸術についてご紹介します。

▲問合せ & 申込み ☎042-734-5100 'わんりい'

【周路先生と中国陝北地方を訪ねませんか】

周路先生は「黄土高原からの手紙・「陝北紀美」」(2001年2月～2004年3月)や「陝北之娃娃」(2005年5月～2007年7月)で「わんりい」誌上に中国陝北地方(黄土高原地帯)を紹介くださいました。現在は安徽省財經大学の教授として学生達に美術課程の指導をしています。今年、夏休みを利用して「わんりい」の仲間達を黄土高原に案内くださいます。

旅行日程は、7月末～2週間の予定ですが、まだ詳細は決まっていません。予定人数は8名くらいまでと考えておりますが、参加ご希望の皆様には詳細が決まり次第ご連絡をします。

詳細希望の方は下記にご連絡ください。

●問合せ ☎ 050-1531-8622 (有為楠)

E-mail: ukiuki65jppj@yahoo.co.jp